



# 日本農業賞 集団組織の部で “倉吉西瓜生産部会”が

# 見事！大賞受賞

# 祝

全国の優れた農業者や営農組織を表彰する「日本農業賞」。その第55回となる今年度、全国の組織の中から、倉吉西瓜生産部会が見事集団組織の部「大賞」に輝きました。長年にわたる産地の維持への取り組みが高く評価されました。今回は、そんな倉吉西瓜生産部会の取り組みをご紹介します。



## 日本農業賞とは？

「日本農業賞」は、意欲的に経営や技術の改善に取り組み、地域社会の発展や食・農の担い手として先進的な活動を行う個人や団体を表彰する賞です。1971年に創設され、NHKやJAグループの媒体を通じてその成果を広く発信し、農業や食への理解促進と地域活性化、日本農業の発展を目指しています。

### 表彰は大きく分けて2部門

- 個別経営の部（個人農業者対象）  
..... 今回の応募件数 94件
  - 集団組織の部（農業団体・生産部会などが対象）  
..... 今回の応募件数 92件
- この中から中央審査会（委員長＝盛田清秀元東北大学教授）が選考し、それぞれの部から大賞・特別賞・優秀賞が選出されました。



## 倉吉西瓜生産部会とは？

- 生産戸数：117戸
- 出荷量：37万5,000ケース
- 生産面積：102ha
- 販売金額：15億2,200万円  
(R7年度)

倉吉市の久米ヶ原台地を中心とした火山灰土である黒ボク土壌からなる産地で、2月下旬からハウス栽培、3月上旬よりトンネル栽培を開始し、5月下旬から7月下旬にかけて出荷。

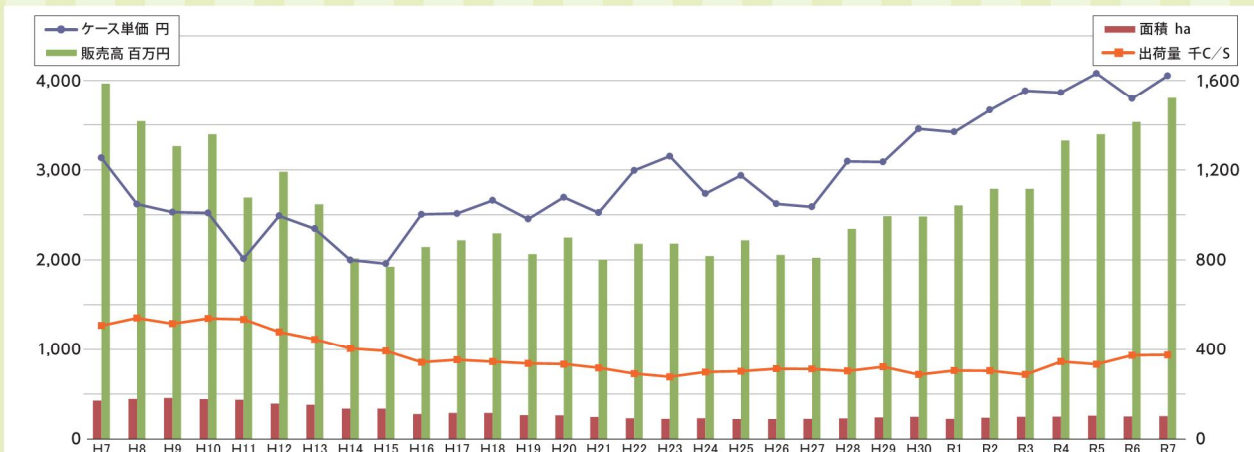
また7月上中旬に定植し9月上旬から下旬に出荷する、抑制作型も栽培しています。



## どんな取組が評価された？「倉吉西瓜16億円達成プロジェクト」

H28年の鳥取県中部地震で産地全体が大きな被害を受けた際、産地復興としてスイカを盛り上げたいという声をきっかけに、過去最高販売額を記録したH7年の販売額16億を目指すプロジェクトを始動。「倉吉スイカ産地強化・加速プラン」を策定し、①新規就農者への手厚い支援と中核生産者の育成 ②裏作との両輪で目標に向かう ③農地譲渡の円滑

なマッチング ④地域の魅力発信——の4つの柱を中心に行行政・関係機関と連携しながら産地復興をはかってきました。その結果、R7年の目標としていた販売額12.1億円をR4年に早々にクリアし、R6年には14.1億円を達成。R7年には15.2億円を計上し、一度落ちていた生産量や販売額を見事V字回復させました。



# 産地振興プロジェクト部が行う新規就農者確保に向けた様々な取組

まず倉吉西瓜を知ってもらおうと、生産者募集チラシ作成や県内外の就農相談フェアに積極的に参加。



生産部内に新規就農者を担当する役員をR2年に初めて設置。現在は産地振興プロジェクト部として活動を行っています。



新規就農者の環境整備(トンネル支柱をベテラン農家と新規就農者間で融通)

新規生産者向け勉強会支援を年4回開催

新規生産者の面談実施



就農後の担い手育成として、熟練農家技術の見える化(指導員が作業する様子をYouTubeで部会員限定公開)

## 過去7年間で40人就農、定着率も100%

20~40代の若い生産者が参入し、生産部会全体が若返り、活気に満ちた状態に。ベテラン農家も新規就農者参入に刺激を受け、生産部会全体の一体感につながっています。

過去7年の実績

単位:人

	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	合計
新規生産者数	9	8	8	4	5	5	1	40
うち親元就農者	0	0	1	1	2	2	0	6

新規就農者は生産部会に新規に入会した生産者数(夫婦の場合は2名で計算)

## 遊休農地の再生事業

長らく耕作放棄されてきた遊休農地を畑地化し、新規就農者に優先的に貸出。



再生前

再生後

## 過去5年間で3.7haの農地を再生

過去5年の耕作放棄地の再生(新規就農者に優先的に貸出) 単位:ha

	R3	R4	R5	R6	R7	合計
再生面積	0	1.9	0.5	1.0	0.3	3.7
うち新規就農者の利用面積	0	0.8	0.5	0.8	0.3	2.4

## 倉吉西瓜生産部会 宮坂真生部会長インタビュー



**Q1** 受賞の知らせを聞いた時の率直な気持ちを教えてください

本当に驚きましたし、同時に大きな喜びも感じました。ここまで来られたのは、関係者の皆さまのご支援とご協力があってこそです。心から感謝申し上げます。

**Q2** 倉吉西瓜の産地を守り続ける中で乗り越えた壁などありますか

生産戸数の維持には、正直なところ苦労しました。ただ、ありがたいことに販売状況が良く、売りに上げて魅力を感じて新たに農業を志す若い方が入ってきてくれました。そのおかげで戸数を保つことができ、結果として販売金額の増加にもつながりました。本当に良かったと思っています。

**Q3** 今後の目標や、倉吉西瓜産地としての展望はありますか

今回の受賞をゴールにするのではなく、これまで積み重ねてきた良い取り組みは、これからも継続していきたいと考えています。また、時代や環境の変化に合わせて考え方も進化させ、若い世代の発想を大切にしながら、新しい挑戦にも積極的に取り組んでいきたいですね。具体的には、県内外での販売促進活動や産地体験会の開催を通じた新規就農者の確保、さらに栽培技術の共有による品質の維持・向上など、地域全体で支え合いながら、持続可能な産地づくりを進めていきたいと思っています。

